令和２年２月 25 日

釜石市議会議長　木村琳蔵様

釜石議会総務常任委員会
報告者：副委員長　深澤　秋子

行政視察報告書

総務常任委員会による行政視察を下記のとおり実施しましたので、報告いたします。

研修先　　静岡県熱海市、大阪府東大阪市、東京都府中市

視察内容

●熱海市　財政再建に向けた取り組みについて（熱海市財政危機宣言からの回復）
1 月 28 日（火）午前 9 時 30 分～11 時５０分

●東大阪市　ＲＷＣレガシーの活用とラグビーのまちづくり
1 月 29 日（水）午前 9 時 30 分～11 時 30 分

●府中市　ＲＷＣレガシーの活用とラグビーのまちづくり
1 月 30 日（木）午前 9 時 20 分～11 時 10 分

日時　　令和２年１月 27 日（月）～30 日（木）

参加者　　総務常任委員会　５名
大林正英委員長　　深澤秋子副委員長
遠藤幸徳委員　　山﨑長栄委員　　古川愛明委員

随行　　ラグビーワールドカップ２０１９推進本部事務局　　副主幹　川﨑文則
議会事務局　　次長　　廣田昭仁

●静岡県熱海市

【対応】　経営企画部企画財政課企画室長　　芹澤元一　氏

経営企画部企画財政課財政室主幹　　高橋佳孝　氏

下水道課経営企画室長　　梅澤謙和　氏

観光建設部観光経済課観光推進室長　　遠藤浩一　氏

【視察内容】

「財政再建に向けた取り組みについて」（熱海市財政危機宣言からの回復）

【質問事項】

１．平成 18 年「熱海市財政危機宣言」に対する市民や議会の反応について

観光業界の方々、旅館組合の方々、団体から大変厳しい反応だった。夕張市の事例もあり「財政危機宣言」とした言葉に強く反発され、熱海市のイメージダウンだという声などあった。各団体や市民に財政状況と目的を説明し「財政再建スタート宣言」と名称を変え理解を求めた。

２．水道料金改正、ごみ袋の有料化など行政サービス値上げ、人件費抑制など行財政改革に反対する方はどうか

大きな団体からの意見はなかった。市民に痛みを負わせることになり様々な意見が出された。水道料金、ごみ袋に関しては、ていねいに目的を説明し理解を頂いた。

３．行財政改革に対する議会の関わりについて

大きな影響を与える財政再建であることから議会側としても行革に取り組んだ。

平成 19 年から 23 年、27 年と議員定数を 2 人ずつ削減し、期末手当を 2 年間 10%削減、平成 21 年 22 年行政視察と会派視察をとりやめ、議会だよりも平成 20 年から 5 年間休刊とした。政務活動費は、そもそもなかった。

４．不良債務を減少させた手法について

（１）収入の確保として①料金改定、平成 17 年 4 月～平成 20 年まで平均改定率 8%料金値上げ、②収納率の向上、平成 16 年より滞納整理を強化。

（２）経費削減として人件費、定員適正化計画による職員数の削減や、給与の減額、各種手当ての支給率等の改正・廃止、②業務委託、検針及び料金徴収等窓口業務の全面委託を実施。廃棄物処理場に係る費用の削減。

（３）一般会計からの長期借入金として、企業債元金償還金へ充てるため一般会計基金から長期借入。

５．観光都市復活に向けた取り組みについて

長期滞在型の世界の保養地－心と体を回復させる現代の湯治場「熱海」－を目指し、熱海市シティプロモーションと民間主導のリノベーションまちづくりで復活を遂げた。

【質疑応答】

Ｑ　議員定数減の経過は？

Ａ　最初は 21 人→19 人→17 人→15 人（現在）これ以上は減らせない。

Ｑ　市民サービス減だったが、議員の反発はなかったか、全会一致か？

Ａ　全会一致ではなかった。

Ｑ　今後の財政運営は？

Ａ　人口は減少で高齢化率も 50％近く社会保障費が増え、歳入も落ちてくる。
その範囲で平成 29 年から令和元年、回復もあり公共施設に投資している。
手をかけなければならないところに手をかけている。

Ｑ　議員報酬は？

Ａ　平成 4 年より変わらず 39 万円

Ｑ　公共施設の維持管理は？

Ａ　目標値を設けている、床面積ベースで 4 割削減。市営住宅など点在しているものは、集約し不用は解体。市有財産もたない、減らしていく。新しい箱物は、勧められない。

Ｑ　議会だよりを 5 年間休刊していたと。市民の関心は？今度の選挙で立候補者数は？

Ａ　あまりなかったが、議員個人がそれぞれニュースなど単独で発信するようになり関心を持つようになってきた。（現在復刊）立候補者数名のはみ出しだった。

Ｑ　改定したことにより人口動態上、近隣への移動などは？

Ａ　人口の移動には至らなかった

Ｑ　改定では高齢者への影響が大きい印象だが？

Ａ　バス券の廃止には反発があったが、タクシー、オンデマンドなどいろいろ試している。敬老行事は一旦廃止とし、今は地区開催にし補助金をだしている。集まりもいいようだ。

【所感】

人口減少、50％近い高齢化率、観光産業を主幹産業としている自治体へ財政再建「Ｖ字回復」を学びに行った。熱海市は、市制施行 80 年だが、その歴史は明治・大正と政財界の要人、文豪などの保養地として発展、別荘が建てられていたところで、気候的にも地理的にも観光地として恵まれ盛んなところだった。しかし時代とともに観光産業は斜陽化し、平成 18 年に「財政危機宣言」が発表された。熱海市の財政状況を 5 年後をめどに再建させることを目指したもので、その内容は一言で言えば市民一人ひとりが「血のにじむ想い」に徹してきたことだろうと考える。また高齢化率 50％　近いなかで福祉事業の廃止には、「厳しい！」と受けとめ我慢強い熱海市民だと思った。Ｖ字回復したことで今後の観光施策に期待をする。

●大阪府東大阪市

【対応】花園ラグビー場活性化推進室スポーツまちづくり戦略室　次長　千田拓也　氏

同　総括主幹　三田章二　氏

【視察内容】

ＲＷＣレガシーの活用とラグビーのまちづくり

【質問事項】

１．ＲＷＣ１周年記念イベントのようなものの予定はあるか。

全国高校ラグビー選手権は盛況だった。次のトップリーグにつながっている。オリンピックでは、7 人制だが開催予定で 2021 年のワールドマスターズゲームズの開催も決まり繋がってきている。

２．スタジアム（東大阪市）の運営方法、運営者、維持管理費、利用状況とＲＷＣ後の新たな利活用予定やラグビー以外利用計画・方針等

花園ラグビー場の運営～維持管理費　歳入 41.860 千円　歳出 130.631 千円

利用実績令和元年、約 33 万 6 千人／39 日間（平成 30 年度 18 万 5 百人／33 日間）

東京オリ･パラ後ウィルチェアースポーツの推進、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の開催など。

３．ラグビープロリーグ構想への自治体対応策

東大阪市を選んで頂けるなら自治体としても対応する。

４．市民と地元チーム（近鉄）選手とのふれあいや交流機会の有無

ＮＴＴドコモレッドハリケーンズ～市内小中学校でタグラグビー教室の実施、中学校には 28 校中 14 校にラグビー部あり。幼児から大学、一般でラグビーカーニバルが 4 日間開催される。近鉄ライナーズ～市内イベントへの参加、様々なイベントに選手が登場、トンプソン選手が「花園友情大使」への就任など。

５．ＲＷＣで創出されたレガシー（有形・無形）とその活用

東大阪市花園ラグビー場の改修～ＲＷＣだけでなく日本代表戦などナイター試合も行なわれる。

６．ＲＷＣを契機に新たに構築された絆（自治体、国等）との交流や今後の展開

観光地経営組織との連携で、ＰＲ動画作成やＳＮＳに広告を出したことによるアクセス数の 7 割が海外で、アルゼンチンが多かった。また市内の商店街では、開催時期に合わせて様々な催しの開催、会場周辺だけでなく市内各地で賑わいが生まれた。今後は、事業者・スポーツチーム、大学などとの連携とスポーツツーリズムを軸としたスポーツ産業の展開。

７．10 月 13 日試合（アメリカ対トンガ戦）と台風第 19 号の影響について

台風の影響はなく、日本チームが勝っていたこともあり 22000 人の来場があった。

【質疑】

Ｑ　経済効果について、釜石市とは現状が違い比較にはならないが？

Ａ　交流人口をどう取り入れるのかについてとりくんだ。何かすると人が集まるという街に印象付けられた。民間活力を利用してお客さんを集める。お客さんが来ないと始まらない。

Ｑ　ＲＷＣの商標のしばりがあって地元の商品が売れなかった。

Ａ　花園でのファンゾーンは 3 日間だけで隣の市域にＰＢを開き自由に商売をした。地元での商売ができない中で、ぎりぎりのところでできた。交流人口、経済効果を期待し、夏・秋のイベントを集約し商店街全体で開催した。

Ｑ　東大阪市では、市として各部署から担当者を出し、その部門の特性で取り組まれたのは成功で、当市でも当事者意識をもっていければよかったかな。賢くやればもっと地元をＰＲできたかなと悔やまれる。

Ａ　場所を区切るのでなく時間で区切りＡＭは、ＲＷＣ関連の事業でＰＭは別物イベントの企画で「1 日中通して見せる」工夫をした。

Ｑ　レガシーの継続は難しい問題と考えるが、マスターズなど年代を超えた企画ができればいいと思っている。ラグビー以外にイベント、コンサートなどにも使用できるよう模索している。子どもたちのなかにどんどん入って行って欲しい、つながりの裾野が広がるような企画を発信して欲しい。

Ａ　教育委員会（学校）にラグビーボールをおくった。

【所感】

2019 年ＲＷＣを開催した当市と東大阪市は、そもそも開催のスタンスが違っていた。おなじ「ラグビーのまち」であるが、東大阪市は市域の活性化としてラグビー場の更なる活用･シティブランドの強化、モノづくりのまち、賑わいのあるまちをあげている。当市は、世界に復興支援への感謝と復興の姿を発信すること。経済効果においては、地元商店街がＲＷＣ商標のしばりの中での思う様に商売が出来なかった。また、バス輸送はスムーズに移動できたものの商店への立ち寄りがなく、経済効果の波及にはならなかった事などがある。大阪は商魂たくましい感があり、全てにおいてそれを如実に示したと考える。ＲＷＣのレガシーが当市でも市民の中に根付くよう工夫が必要と考える。

●東京都府中市

【対応】　政策総務部政策課　ＲＷＣ推進担当主査　本間　雄士　氏

政策総務部政策課　オリ・パラ等推進担当副主幹　山下　健一　氏

政策総務部　オリ・パラ等推進担当副参事　佐藤　直人　氏

【視察内容】

ＲＷＣレガシーの活用とラグビーのまちづくり

【質問事項】

１．ＲＷＣ開催１周年記念イベント予定

ＲＷＣ開催後より 2020 年東京オリ・パラの競技会場となっている。大会にあわせ事前キャンプを誘致している。RWC 記念のデザインマンホールを設置したく予算措置をしている。

２．ラグビープロリーグ構想への自治体対策

自治体として、市内の東芝．サントリーがどういう動きとなるのか注視したい。

３．市民と地元チーム(東芝、サントリー)選手とのふれあいや交流機会

「ラグビーのまち府中推進委員会」では、ラグビーを地域資源として捉え地域活性化、スポーツ観光の振興、子どもたちの健全育成に寄与する目的で様々な活動をおこなっている。地元チーム選手のトークショー、ラグビー体験、ラグビー観戦バスツアー(バスガイドは選手)、市長杯ダービーマッチ、選手、ラグビージャーナ

リストによるフォーラム・シンポ、市内児童参加の大会など。

４．ＲＷＣで創出されたレガシー（有形・無形）とその活用

アサヒフットボール場の整備、公認キャンプ場となった。新生チームで利用している。一般市民がサッカー場として利用していたが、オリ終了後サッカーとラグビーの共存で活用したい。多数のボランティア登録がありオリ・パラで活動している。市民団体との連携でラグビーのまち府中を盛りあげること。

５．ＲＷＣを契機に新たに構築された絆（自治体、国等）との交流や今後の展開

３市（府中市、調布市、三鷹市）の連携事業を取り組んできてキャンプの受け入れしている。東芝・サントリーと交流、引き続きの連携。国際的なスポーツ大会でチームを受け入れた実績と経験は、東京 2,020 をはじめとするスポーツ合宿を受け入れる上で強みとなる。

６．ＲＷＣの経済効果について

数字的にはわからない、ＰＶの実施で一定の効果はあった。

【質疑】

Ｑ　キャンプの受け入れ数字的効果は。

Ａ　地元に大きなホテルがないため、都心からバスでの移動だった。

Ｑ　府中市で使われた財源は。

Ａ　フットボール場の整備 5 億弱　：芝の整備、フェンス、照明、クラブハウス
イベント関係：1 億 2 千万　（地方創生の公布金）

Ｑ　職員の配置は。

Ａ　10 人で 2018．2019 ラグビー専属 2 人

Ｑ　市民団体との連携はあるか。

Ａ　推進委員会とは別にサポートしていく団体はあるが、資金がないのでどうこう言えない

Ｑ　ラグビー開催地の 12 自治体の連携は？やって欲しいが。

Ａ　継続させていくために横の連絡組織は作りたいかなと考える。

Ｑ　ラグビーのまち府中市、推進委員会の事務局はと思うが予算規模構成団体の負担とかあるか。

Ａ　推進事業として市で扱っているので、経費は市が中心である。

Ｑ　公認キャンプ地となるアサヒフットボールパークの管理は。

Ａ　一般市民に開放するレベルとキャンプ場との関わりで、芝生の管理等一定の制限をかけていこうかと。

【所感】

府中市と釜石市との関係は、震災時避難所運営のための人的支援、東中学校・鵜住居小学校への応援物資の提供、義援金等はじめ各団体からの支援をうける。また東京都議会議員による「ラグビーのまちの振興策」の視察や、大学ラグビー部出身である府中市長の来釜などラグビーを通じて交流ができていると思った。

4 年に１回の RWC で、この機会を絶対成功させラグビーのまち・スポーツタウンを定着させるという努力をうかがい知ることが出来た。それは、事業実績からも分かるように PV はもとより、まちづくり府中の事業委託、観光案内おもてなし、中学生によるボランティア活動の実施、伝統文化体験の企画、教育委員会では全中学校が分担し来場者に向けたおもてなしを実施など、市民も楽しめて国内外からの来客にも満足して頂けるような工夫がされていたことである。そしてなんといっても有名スター選手を擁する地元チームの存在である。トップリーグの報告会やトークショー、体験会など市民と一体となっていることである。当市でも地元チームと一体となりラグビーのまち釜石を益々盛り上げていくことが大事と考える。

【静岡県熱海市】

【大阪府大阪市】

【東京都府中市】